

4月23日(木)、「味ぽん」や「金のつぶ」で有名なミツカンさんが運営する水の文化センターの機関誌『水の文化』79号の取材が、蔵持地区の蔵清水の井戸とカフェで行われました。

今回は『日ごろから地域で備えること』がテーマとのことで、蔵清水の井戸が「地域防災」だけでなく井戸水を使用しカフェとしても「人が集う地域のコミュニティ」に活用されている日本でも珍しい事例として紹介されることになりました。

当日は、ミツカンさんの皆さんに加え、蔵持住民や地域で交流のある方、また名張市役所協働のまちづくり推進室長の山川さんと蔵持地区担当の大杉さんもかけつけてくださいました。

実際に井戸で水を汲んだり、井戸水で淹れたカフェの飲み物を楽しんだりしながら、井戸発掘の苦労や支え合いのエピソードも語られ、普段は知ることのなかった地域の歴史を改めてみんなで共有する貴重な機会にもなり、終始笑顔があふれる楽しい一日となりました。

1804年の創業より「水」を大切にしながら、社会や食文化へ貢献を続けてこられたミツカンさんがこの小さな蔵持地域に注目してくださったことは大変光栄な機会であり、アドバンスコープや朝日新聞社も取材に訪れてくれました。



右から) ミツカン水の文化センター長 浅野さん、機関誌『水の文化』編集 前川さん、カメラマン 川本さん、ライター 佐々木さん。みなさん気さくな方々で一生懸命お話を聞いてくださいました。



井戸を掘る様子を語ってくれる当時のまちづくり委員会会長 木村さん、副会長 故・吉岡さんの奥様、現会長の高山さん。アドバンスコープさんや朝日新聞社さんに取材の逆取材もしていただきました。



最後にミツカン水の文化センター長の浅野さんから「取材を通して、蔵持の皆さんが笑顔で本当にこの蔵清水の井戸やカフェが大好きで大事にしている気持ちが伝わってきました。世代を越えて集まれるコミュニティを作れるのは本当に素晴らしいことだと思います。」と嬉しいお言葉をいただきました。

改めて私たちの井戸とカフェが、防災の備えとしてだけでなく、地域をつなぐ大切な場所になっていると感じました。



ミツカン
水の文化センター



機関誌『水の文化』



今年度最初のくらっこ広場が開催されました。

例年通り年度初めは参加者が少ないのですが、子どもたちは元気いっぱい遊び、ママたちは子育ての情報交換やおしゃべりで、楽しい時間を過ごしました。

今年度もたくさんのボランティアさんに支えられて、楽しい時間を共有できる場所になっています。

◎5月のくらっこ広場は14日(水)・22日(水)です。

くらっこ達のお越しをお待ちしています♡



くらっこ広場の
年間予定はこちら▶

※PDF データです。

